

1~3面 平和を追い求める

4~5面 京都YWCAのチャレンジ

6面 福島の高校生プロジェクト

7面 「熊本地震被災者支援募金」報告

# 平和を 追い 求める



挙直前！私たちにできること！と題して、自民党改憲草案の問題点を学び、7月の参院選に向けた取り組みのヒントをいただきました。

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)  
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する  
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

8

AUGUST  
2016

No.733

第31総会期主題

平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力により平和を実現する
  - ・平和憲法をまもり、世界に広める
  - ・原発のない社会をつくる
  - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
- (2) 女性と子どもの権利をまもる
- (3) 若い女性のリーダーシップを養成する

www.ywca.or.jp

## Striving for Peace

敗戦から70年にわたり、平和を追い求めてきたYWCA。安保関連法案が可決し、改憲が声高に叫ばれる今、私たちは何を目指し、どう歩むべきか——。

日本YWCAは1905年の創立当初から、女性の人権のために活動してきました。工場や会社で酷使される女性のために休息や学びの場を提供し、健康や待遇改善のために尽くしたのです。

### 戦争への痛切な反省

戦後の日本YWCAは、平和のために働く団体と言われてきました。その背景には、心ならずも戦争に巻き込まれてしまったことへの痛切な反省がありました。

従って、1945年に敗戦を迎えたことは、会員にとって「解放」でもあったと思われまふ。平和と民主主義の社会になり、敵性宗教として弾圧されていたキリスト教が認められ、国際交流が憧れを伴って受け入れられたのです。

しかし、その喜びは長くは続きませんでした。敗戦から5年、朝鮮戦争が起きると、日本は米軍の前線基地となり、東西冷戦下に共産圏

囲い込みの重要ポイントとして利用されたのです。また、1958年に警察官職務執行法が改正されると、軍事化の再来を懸念したYWCAは、全国的に反対運動を繰り広げました。これを手始めに、

毎年の憲法研究会や「ひろしまを考える旅」など、

エンパワーするNGO



## 2016年度 加盟YWCA 中央委員会報告

変革

## 次総会期に向けて



加盟YWCA中央委員会が5月21日〜22日に開催されました。毎年恒例のこの集いは、全国の地域YWCAから会員・職員の代表が集まり、全国の現状と課題を共有し、YWCAの将来的な構想とともに話し合う場です。今年第31総会期の最終年であり、11月に開催される全国総会への提案を決議

すべく、45名が集まりました。熊本地震の余震が収まらない被災地から駆けつけた熊本YWCA会長の江崎さんから、震災当初の状況と被災者支援の報告を伺うことができました。また、「日曜憲法カフェ」では、武井由起子さん(弁護士・明日の自由を守る若手弁護士会)から「選

私たちの未来の方向性を決断する時です。来る11月の全国会員総会では、YWCAが何を大切に、どのように変革していくのかを、一緒に考えて実現していきましょう。

日本YWCA副会長 横山由美子

ご協力ありがとうございました

後 恭子 本城智子 市川真美恵  
益田明美 松下優子 仁科謙太郎  
水野淳子 石渡能子 伊藤富美子  
飯島敦子 田中唯彦 大澤恵美子  
平井純子 河西恵子 具島美佐子  
阿部方子 桐村豆子 田村三保子  
中村紀子 松岡信子 長尾眞理子  
松田和子 湊 晶子 松村ユカリ  
松本彰雄 天野直子 杉田佐紀子

田村三保子 長尾眞理子  
災害時支援募金  
(国内外の災害被災者支援)  
原田早苗 井出 都 飯島敦子  
秋元靖子 首藤和子 田村三保子  
後 恭子 松下優子 松村ユカリ  
桐村豆子 榎本みづ枝

桑原貴子 坂和 優 田村三保子  
平井純子 中村紀子 長尾眞理子  
野澤節子 天野直子 友田シズエ  
(台湾南部地震被災者支援募金)  
公益財団法人東京YWCA  
公益財団法人名古屋YWCA  
東日本大震災被災者支援募金  
須藤敦子 鶴崎祥子 小林瑛子  
原田早苗 井出 都 土屋幸子  
野崎文字 小泉陽子 後 恭子  
中村紀子 松岡信子 具島美佐子  
松田和子 西本玲子 田村三保子

大阪女学院中学校・高等学校宗教部  
女子学院同窓会  
デンマークYWCA  
パレスチナYWCA  
カナダYWCA  
アイルランドYWCA  
匿名(ソフトバンク株式会社「かざして募金」より)  
(2016年4月16日〜6月15日現在  
敬称略)



政治・軍事・経済のすべての勢力を握っていました。そのローマ帝国の属国ユダヤでイエスは生まれました。大国の支配の下で、格差が増大し、貧しい人たちは苦しんでいました。正義追及の名の下で、病む人や罪人と言われる人、差別の対象となった人々は、社会で圧殺されてきました。こういう現象は、力が社会を覆うときに必ず起こるのです。

イエスは「あなたの敵を愛しなさい」と教えられました。ドイツの哲学者、カール・フリードリヒ・フォン・ヴァイツゼッカーは、これを次のように解説しています。「敵を愛すとは、敵を理解するように努めること、それは、彼の状況に身を置き、彼の立場から世界を見、彼の関心や希望、彼の不安や傷ついた心を知

同時に、私たちは世界を念頭において判断すべきです。かつての残虐な侵略戦争を許し、今後は平和に共に生きようと受け入れてくれたアジア・太平洋の友人たち。「日本は人を殺さず繁栄を築いた」と高く評価してくれているアラブの人たち。難民受け入れに取り組みヨーロッパの人々。その人たちは、日本の方向転換をどう見ているでしょうか。

「敵を愛しなさい」

イエスは「あなたの敵を愛しなさい」と教えられました。ドイツの哲学者、カール・フリードリヒ・フォン・ヴァイツゼッカーは、これを次のように解説しています。「敵を愛すとは、敵を理解するように努めること、それは、彼の状況に身を置き、彼の立場から世界を見、彼の関心や希望、彼の不安や傷ついた心を知

差別される人の仲間になり、罪人を受け入れました。苦しむ人、悩む人に寄り添い、その人の願いをかなえたのです。その結果、権力者に妬まれましたが、抵抗することなく徹底した非暴力を貫き、十字架という極刑に処せられました。その場にいた誰しもが、イエスの人生を敗北と思ったでしょう。しかし、イエスが息絶えた時、一部始終を見ていたローマの役人が「本当にこの人は神の子であった」と言いました。当時のローマ人が信仰していた輝かしく強い神々ではなく、見る影もない惨めな人。何の悪いこともせず、徹底して人のために生き、最後まで人を赦して死んでいく。これができるのは、神の子でしかありえないという、役人の告白でした。ローマ帝国が廃墟になった今、イエス・キリストの真実さは、世界の人々の心に響いています。

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)



東京YWCA会員 鈴木伶子

平和プログラムが活発に展開されました。60年には、日米安全保障条約が延長され、日本の基地が米軍に使用されることに反対して、多くの会員がデモに参加しました。70年のYWCA中央委員会では、激しい議論の末、安保反対の立場を組織として打ち出しました。

その後、日本は経済大国になると同時に、世界でも有数の軍備を持つ軍事大国になりました。米国との同盟関係を強化し、危険な基地を沖縄に押し付ける形で、安全が声高に叫ばれたのです。それでも、日本の軍隊が他国の人を直接、殺すことも殺されることもなく「戦後70年」が経ちました。

しかし、昨年から戦後70年は終わり、今や戦前の状態だと言われています。昨夏の国会で強行採決された一連の安全保障関連法のためです。

「歴史と世界を視野に」

10年ほど前、私は『日本YWCA100年史』の編纂に携わりながら、戦時中のYWCAの会員、リーダーたちに思いを馳せ、その苦しみを思い、痛ましさを感ずりました。今度は、私たちが検証される番です。後世のYWCA会員は、このように日本が戦争に向けて大きく舵を切った2015年・2016年に、日本の

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」(ペトロの手紙1:3章9節)



東京YWCA会員 鈴木伶子

「歴史と世界を視野に」

10年ほど前、私は『日本YWCA100年史』の編纂に携わりながら、戦時中のYWCAの会員、リーダーたちに思いを馳せ、その苦しみを思い、痛ましさを感ずりました。今度は、私たちが検証される番です。後世のYWCA会員は、このように日本が戦争に向けて大きく舵を切った2015年・2016年に、日本の

「歴史と世界を視野に」

10年ほど前、私は『日本YWCA100年史』の編纂に携わりながら、戦時中のYWCAの会員、リーダーたちに思いを馳せ、その苦しみを思い、痛ましさを感ずりました。今度は、私たちが検証される番です。後世のYWCA会員は、このように日本が戦争に向けて大きく舵を切った2015年・2016年に、日本の

「歴史と世界を視野に」

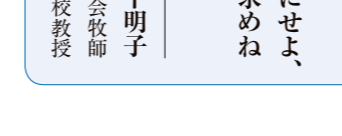
10年ほど前、私は『日本YWCA100年史』の編纂に携わりながら、戦時中のYWCAの会員、リーダーたちに思いを馳せ、その苦しみを思い、痛ましさを感ずりました。今度は、私たちが検証される番です。後世のYWCA会員は、このように日本が戦争に向けて大きく舵を切った2015年・2016年に、日本の

「歴史と世界を視野に」

10年ほど前、私は『日本YWCA100年史』の編纂に携わりながら、戦時中のYWCAの会員、リーダーたちに思いを馳せ、その苦しみを思い、痛ましさを感ずりました。今度は、私たちが検証される番です。後世のYWCA会員は、このように日本が戦争に向けて大きく舵を切った2015年・2016年に、日本の

「歴史と世界を視野に」

10年ほど前、私は『日本YWCA100年史』の編纂に携わりながら、戦時中のYWCAの会員、リーダーたちに思いを馳せ、その苦しみを思い、痛ましさを感ずりました。今度は、私たちが検証される番です。後世のYWCA会員は、このように日本が戦争に向けて大きく舵を切った2015年・2016年に、日本の



日本キリスト教団武蔵野緑教会牧師 日本聖書神学校教授 柳下明子



Striving for Peace

平和を 追い 求める

種

無垢であろうと努め、 まっすぐに見ようとせよ。 平和な人には未来がある。

(詩編 37編37節)

みなさんは子どもたちに、どんな未来を残したいと願うでしょうか？ 多くの人の願いは、そんなに大きく異なるものではないでしょう。戦争のない世界、雇用の機会が平等に与えられる社会、安定した生活環境、不当な暴力がまかり通ることのない社会、私たちが子どもたちに残したい未来は、ごく当たり前の人間が尊重される世界であると思います。

聖書はそのような、社会の構成員一人ひとりの人間性が尊重される状態を「平和(シャローム)」と呼びます。旧約聖書の詩編37編は、そのような「平和」が根本的に侵害されている状況を生きている人の嘆きを歌います。この詩は「悪事を謀る者のことであらう立つな。不正を行う者をうらやむな。」という言葉から始まります。詩人の目の前には不正がはびこり、権力者と富裕層が人びとを苦しめています。分けることより奪うこと、門を開くより壁を築くことの方が、大切なことのように語られる世界です。

その世界でなお、一人ひとりの人間性が大切にされる世界を求めるために、詩人は詩編の言葉を残しました。平和こそが未来をつくる。

私たちが子どもたちにどのようなものであるにせよ、未来を残したいのなら、まず何より先に平和を求めねばなりません。



大きなテーブルに  
いつの間にか  
人が集う  
「うららかふえ」

れる、支配する／される、コントロールする／されることなど「やりとり」を  
実践する場を、今後増やしていきたい  
と思います。

京都へお出かけの際はぜひお立ち寄り  
いただき、「うららかふえ」で温かいラン  
チをお楽しみください。

京都YWCA「ふれあいコミュニティ事業」  
報告書編集チーム



女子のための  
自立援助ホーム

## カルーナ



家庭や養護施設などで暮らせない15歳～20歳の女性のための安心・安全な居場所です。本館3階に個室6室と共用のキッチンやリビング、事務所などを備えています。昨年に利用者2名、職員2名と共にスタートしましたが、京都府下に他に若い女性の自立援助ホームがないこともあり、半年で定員の6名に達し、1年3ヵ月を経て利用者は9名になりました。被虐待や貧困、障がいなどさまざまな問題を抱えた利用者が自立して社会に出ていけるよう、試行錯誤を繰り返しながらサポートしています。彼女たちは「うららかふえ」で働いたり、バザーの手伝いをしたりして、YWCAに集う人々とふれあうことで貴重な社会経験をしています。巣立っていった人たちのアフターケアや、自立援助ホームひいては、社会的養護を必要とする子どもたちの存在を広く周知することが目下の課題です。

ふれあいの  
居場所食堂

## うららかふえ



「うららかふえ」は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズが建築した「サマリア館」内に2014年9月にオープンしました。花壇を通り、夏みかんの木をくぐった先にある瀟洒な木造の建物です。ランチタイムには、会員や委員会が中心になり安全・安心な材料を使った日替わりメニューを提供しています。コーヒーと紅茶は京都YWCAのショップでも扱うフェアトレード製品、また会員手作りのクッキーやケーキも用意しています。近隣から昼食に訪れる常連の方々もいます。また、映画の上映会、絵本の読み語り、平和学習会なども行い、集まる人たちの交流の場となり、「居場所」となりつつあります。

営業時間／火曜～土曜、  
11時～16時  
定休日／日・月曜・祝日、  
YWCA会館休館日  
問い合わせ／075-431-0351

サービス付き  
高齢者向け住宅

## サラーム



「サラーム」は60歳以上の女性のためのバリアフリー住宅（京都YWCA本館2階8室）です。入居者に見守りと生活相談サービスを提供しています。入居者の個々のライフスタイルを尊重する一方、京都の季節を愛でるお出かけと食事会を組み合わせ、入居者同士や会員との交流会を実施しています。入居者は、隣接する「うららかふえ」でランチをしたり、共用の居間に集ったり、自由に外出を楽しんだりしています。また、京都YWCAのイベントに参加する一方、カフェの手伝いや戦争体験のお話やフルート演奏など、プログラムの主役になる方もいます。開業から2年目に入りますが、入居者は会館に出入りする人々との関係をゆっくりと着実に育んでいます。

資源と経験を活かして  
社会のニーズに応えよう

京都YWCAでは、建物（1967年竣工）の老朽化に対処するための改修を考えるに際し、今後の組織の方向性の根本的検討が必要だと考えました。私たちは何がしたいか、これからの社会で何が求められているか、市民組織として蓄積した資源をどのように活かしていくべきか…。4年間にわたる議論を重ねた結果、これまで取り組んできた、親子の「育ち」支援、外国籍住民支援、平和学習などの経験を活かして、「多文化共生」、「女性と子どものエンパワメント」、「ふれあいの居場所提供」を重点テーマとすることに決めました。

その方針に沿って大規模改修を実施し、2014年9月に高齢者住宅と居場所食堂と女子留学生寮を開始し、翌年4月には若い女性の自立援助ホームをスタートさせました。現在、私たちは、乳児から高齢者まで、さらに多様な文化的背景の人々を有機的に結びつけ「交流・協働」を促すコミュニティを目指して活動しています。

人と人が織りなす  
出会いと協働の場

この「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」の取り組みは、共に生きる平和な社会を目指すYWCA運動の実



京都YWCAの  
チャレンジ

# 多世代・多文化 ふれあいコミュニティづくり

京都YWCAでは、  
高齢者のための住宅と若い女性の自立援助ホーム、  
コミュニティカフェを運営し、  
多世代・多文化ふれあいコミュニティづくりを実践している。  
国土交通省の先導的事業にも選定された、  
その取り組みを詳しく紹介する。

キッチンはいつも賑やか。  
この日はカツ丼を作りました



践の場です。出会いと協働の場を紡ぐためには、実際の「場」と「人」が必要で、そしてやはり、YWCAの最大の魅力は「人」です。

京都YWCAでは、そこにいる一人ひとりを「受け止め」「対話する」人がいます。例えば、「うららかふえ」では、ボランティア体験を希望する高校生・大学生や、就業体験を希望する「カルーナ」の若者が共に働き、お客様として来店する

「サラーム」の高齢者の体調に目配りし、声掛けをします。キッチンでは、普段は別の活動をしているメンバーと一緒にキッチンワークをしながら会話を弾ませます。プログラムでは、参加者は自分のタレント（持ち味）を活かしながら、日本語学習者や留学生入居者と「食」を媒介に、互いの文化や生活習慣への理解を深め、友達になります。会館の居住者と利用者「今日、誰とも会話をすることがなかった」

ではなく、「今日、おもしろい話を聞いた」「初めての体験をした」「素敵な人に出会った」と、人と関わる経験を積み重ねるチャレンジングな「場」を紡いでいます。

今多くの女性や子どもが「生きづらい」を感じています。その一つが、「人とのやりとり」にしんどさを感じていることではないでしょうか。「平和をつくる」一歩は、他者とのやりとり、人間関係から暴力性を取り除くことです。命令する／さ

# 「熊本地震被災者支援募金」への ご協力に心より感謝申し上げます

## 募金総額 560万6,344円

(2016年4月16日～6月30日)

4月14日に発生した熊本地震を受けて、日本YWCAでは、国内外に向けて「熊本地震被災者支援募金」の呼びかけをスタートし、6月30日までに合計161件、総額5,606,344円のご寄付をいただきました。

寄付金は被災地の女性と子どもの安心と安全、高齢者・障がい者・留学生の支援のために用いらさせていただきました。

皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。



ご協力ありがとうございました

災害時支援募金

(熊本地震被災者支援募金)

- 吉田亜希 遠藤洋子 勝 美恵
- 難波郁江 山内明子 林 奈々
- 嘉敷千絵 佐野和郎 山口慧子
- 比企敦子 益田明美 松本京子
- 八木高子 石川玲子 泉 恵子
- 天川啓子 古川美幸 行者 蒔
- 森田麻生 飯野敏子 寺島順子
- 西 文子 内山佳子 久宗白百合
- 渡辺祐子 永田裕香 遠藤恵美子
- 汀なるみ 浅原由美 弘中奈都子
- 岡田康子 森田健司 池田真沙子
- 黒木雅子 中島千晴 柴田和三朗
- 松田美鶴 藤井京子 中村みゆき
- 遠藤真理 犬伏邦明 斎藤万里子
- 丹野竹子 落合洋子 為我井初美
- 木村澤子 財部早苗 上村愈巳子
- 手島千景 手島基行 須藤伊知郎
- 吉野直美 玉生邦子 笹川代志恵
- 青木浩子 前田佑子 米山麻以子
- 松崎紀憲 飯田和 吉川真知子
- 調 幸子 高橋 徹 原田由美子
- 三井弘子 望田 幸 高橋りえ子
- 村田幾代 島田由香 狩野ゆかり
- 吉野恵子 藤村幸子 木下未果子
- 鈴木伶子 清水嶋幸 内木場若太

- 柴田幸子 野田雅子 味村真知子
- 野村羊子 大野綾子 田島すみ子
- 芝田真子 石藤安子 木田みな子
- 飯田静子 杉本康雄 山田みちえ
- 仲里知花 日暮時子 田辺いつみ
- 林 節子 山本淳子 甲田真理子
- 柿木順子 東 生野 酒井嘉代子
- 毛利亮子 河村双葉 市村貴美子
- 川谷恵子 結城孝子 森住奈保美
- 村上協子 岸田晃子 若林有美子
- 加藤英明 藤田純子 武内富貴代
- 肥田信長 豊村みどり
- 株式会社ドムコーポレーション
- 日本基督教団月寒教会
- 福岡女学院高等学校YWCA部
- 広島女学院中学高等学校吹奏楽部
- フェリス女学院中学校・高等学校
- 同志社香里中高 生徒有志 同
- 捜真女学校中部・高等学部
- 飯館村の暮らし写真展実行委員会
- 富士見台をよくする会
- チャリティマルシェタンジ
- ばらのお家文庫
- 花すまいる
- 東京YWCA「留学生の母親 運動城南地域
- 東京YWCAお弁当とお菓子作りの会
- 東京YWCAまきは保育園
- 東京YWCA国領センター



- 東京YWCA武蔵野センター
- 東京YWCA熊本地震被災者支援募金箱
- 大阪YWCAシャロン千里
- 大阪YWCA東日本大震災被災者支援チーム
- 呉YWCAものづくりのRiccorico
- 釧路YWCA 福島YWCA
- 湘南YWCA 新潟YWCA
- 静岡YWCA 松山YWCA
- 長崎YWCA 沖縄YWCA
- 一般社団法人札幌YWCA
- 一般財団法人函館YWCA
- 一般財団法人仙台YWCA
- 一般財団法人平塚YWCA
- 一般財団法人呉YWCA
- 公益財団法人東京YWCA
- 公益財団法人横浜YWCA
- 公益財団法人名古屋YWCA
- 公益財団法人京都YWCA
- 公益財団法人大阪YWCA
- 公益財団法人神戸YWCA
- デンマークYWCA
- パレスチナYWCA
- カナダYWCA
- タイYWCA
- アイルランドYWCA
- 韓国YWCA
- 匿名

(敬称略)



ライフスタイルを考える  
イベントで自然エネルギーを  
アピール

子どもがふみだす 福島復興体験応援事業

## 高校生が 「ふくしま、から考えた 新しいエネルギーのこと

日本YWCAは、東日本大震災で被災された女性と子どもたちの心身を守り、課題解決のチカラとなることを願い、あの日生まれた子どもたちが20歳を迎えるまでの20年間の支援を目指しています。その事業のひとつ「ふくしまから考える新しいエネルギー」の活動について報告します。

### 地域再生の担い手に

日本YWCAの東日本大震災被災者支援事業を担う「com7300委員会\*」では、2015年9月～翌年3月の半年間、福島在住の高校生を対象に、「ふくしまから考える新しいエネルギー」(全9回)を開催しました。このプログラムは、東京電力福島第一原発の事故を受けて、高校生たちが選択するエネルギーのあり方を考え、福島の可能性に気づき、地域再生の担い手となることを目的とし、



みんなで火をおこしてピザを焼いたよ

自然エネルギーの仕組みや可能性を学び、日々の生活に活かす活動を体験するものです。

12名の高校生が、ソーラーパネル製作、また自然エネルギーに取り組む現場(福島・神奈川・東京・千葉・兵庫)を訪問し、最終回の報告会では、自然エネルギーの可能性と課題について報告し、今後取り組みたい企画案を発表しました。

### 皆で世界を変えましょう

高校2年の男子生徒による、報告会閉会の挨拶を抜粋して紹介します。

「昨日で震災から5年が経ちました。原発事故後、両親の実家の浪江と小高には入れず、祖父は家に戻ることなく昨年亡くなりました。でも、これを事故として扱い、僕らが被害者として留まっているのは違うのではないかと、僕たちは前に進まなくてはいけないのではないかと思います。

ではどうしたらいいか。原発に代わるものとして、やはり自然エネルギーを使うべきなんです。僕たちは、自然エネルギーの先進県としての「FUKUSHIMA」を世界的なブランドとして立ち上げ、広



ソーラーパネル作りに挑戦

めたいと思います。それが僕たち、傷を負った福島県民の使命だと思うのです。その一番原点にあるのは、原発事故です。それを忘れないで闘っていくべきです。だから、大人の皆さん、助けてください。皆で世界を変えましょう」。

com7300委員会では今年も福島在住の高校生を対象に「子どもがふみだす 福島復興体験応援事業～ふくしまから考える新しいエネルギー part2～」(全7回)を開催する予定です。

com7300委員会

\*ラテン語の「com(ともに)」と「20年間(7300日)」の継続的支援を目指して名付けました

\*このプログラムは福島県教育委員会「子どもがふみだす 福島復興体験応援事業」の補助を得て実施しました。